

《はじめに》

○昨年度、WAの競技規則の体系が変更になり、「Competition Rules (CR)」と「Technical Rules (TR)」に分けられた。日本陸連競技規則は従来の体系で記載(新体系を併記)したが、2021年度よりWA同様の新体系で記載することとなった。なお、2021年度に限り旧体系が併記される。

例) 第163条2(a) → TR17.2.1

《2021.4.1適用の修改正》

○TR5 競技用靴

2020.12.1よりトラック種目・フィールド種目すべての競技に適用(駅伝競走を除く)。

- ⇒2020年11月30日までの移行期間中で改正規則を適用しない競技会の場合、規格外の靴を使用している競技者も出場が可能で、該当競技者のリザルトの備考欄に県内では「PS」と表記し処理を行ってまいりました。移行期間が終了したことに伴い、今後は規格外の靴では競技会に参加することはできません。(招集所にて検査を行い、規格外の靴の競技者は欠場扱いとなります。万が一、招集所を通過した場合でも競技終了後に審判長によって失格が宣告され、記録は無効となります。)
- ⇒26.5~27.0cm(サイズ42(EUR))の靴を基準としているため、靴底の厚さの計測では多少の誤差が生じる場合もあります。基準値を超えていてもWAの承認リストに掲載されている靴であれば出場可能ですが、中敷きを変更している場合は出場できません。
- ⇒駅伝競走については本条項が適用されません。

種目		最大の厚さ	備考
トラック	800m未満	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
	800m以上	25mm	
	競歩競技	40mm	トラック競技・道路競技
フィールド	三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
	それ以外 ※全ての投てき種目、高さの跳躍及び、三段跳を除く長さの跳躍種目	20mm	
クロスカントリー		25mm	
ロード		40mm	

○TR5.10 アスリートビブス

アスリートビブス(ビブス)のサイズが変更。

- ⇒「横24cm以内×縦20cm以内」から「横24cm以内×縦16cm以内」へ。ただし、中体連・高体連で現在使用しているものや旧規格の在庫がある場合は、2023年3月末まで旧規格の使用可。

○TR19.24.5 トランスポンダーシステム

競技会によって、ネットタイムを参加標準記録の資格記録として扱ってもよい。

- ⇒正式の時間はグロスタイム(信号器のスタート合図)です。各大会参加要項をご確認ください。

○TR23.7 障害物競走

水濠を越える際のルールのも明確化。

- ⇒水濠を越える際は、水濠の左右を問わず水濠以外の地面を踏んではいけません。「距離が短くなる・ならない」「外に出た歩数」ではなく、「きちんと水濠を越えたか・越えていないか」で判定

《2022.4.1適用予定の修改正 ※1年延期となった》

○TR29・30 走幅跳・三段跳

踏み切りを行う際、足または靴のどこかが踏切線の垂直面より前に出た時は無効試技とする。

- ⇒現行の「身体のどこかが踏切線の先の地面(粘土板を含む)に触れた時」からの変更です。現在は靴の先端(地面からわずかに浮いている部分)が踏切線を越えていても、粘土板に痕跡が残らなければ無効試技となりませんが、2022年度からは無効試技となります。
- ※これに伴い、粘土板の角度も45度から90度へ、競技会によってはビデオカメラ等を使用します。

詳細については、審判講習会資料もしくは2021年度版陸上競技ルールブックを参照されたい。
文責：青柳 智之(日本陸上競技連盟競技運営委員・JTO/長野陸上競技協会競技運営委員長)

